放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日：令和 3年12月13日

公表：令和 4年2月1日

事業所名：ポカラポットふじしま

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7				・それぞれの個々の活動に応じたスペースのつくり方、整え方を、今後も工夫していきたい
	2	職員の配置数は適切である	6	1		・曜日によっては目が届かないこともあるので、配置人数だけでなく配置場所にも気を付けていきたい	・ワンフロアで全体を把握しやすい環境ではあるが、スタッフのポディションや個別対応など、意識の共有とリーダースタッフの育成に取り組んでいきたい
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	3	1	・玄関には段差があるが、そこ以外はフラットなワンフロアになっている ・車イスの利用者がいないため、問題を感じていないが階段がある	・玄関に1段のステップがあるが、手すりを設置することで転倒などに備えている
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7			・今年度4月より業務の大幅な見直しを行ってきた。Cheak-Actionが今後の課題	・定期的に業務内容と担当の見直しを図り、現段階での最適化がされてきた。今後も変更を厭わず、自分たちが力を入れたい部分（支援）にマンパワーを集中させたい
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	2		・昨年度のアンケート結果に対し、局部的な対応に留まり、年間を通じた組織的な改善活動にまでつながっていない ・スタッフ間で把握はされているが改善に関しては個々の意識によると感じる	・来年度早々に本評価についてのMTを開催予定。いただいた意見を確実に施設の業務改善、支援向上につなげていきたい
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7			・毎年、自社HPとWAMNETで公表している	・とりまとめが完了した段階で、HPとWAMNETにて公表を行う
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2		5	・受審実績はない ・外部評価を行っていないため	・第三者評価委員の資格を持つスタッフを中心に、施設間での内部評価を実施していきたい。第三者性を高めるための工夫を考えていきたい
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	4		・コロナ禍により、社内の全体MT（研修）、外部研修の機会が減少した。事業所においては、事例検討や安全管理についてのテーマで研修を行った ・今年は研修自体も少なかったので、今後色々な研修に参加していきたい ・コロナ禍にあり、機会は少なかっ	・今年度はコロナ前の年間研修・MT計画をベースに、感染対策を講じた上で、オンラインを含むコロナ禍での経験を活かした研修機会の整備に取り組んでいく。スタッフの資質向上の後押しこそ、組織のテーマとして推進していきたい
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7			・年度はじめに配布するアセスメントシート、保護者面談によって、保護者のニーズの聴取を行っている。計画のフォーマットには、本人と保護者のニーズを記載する枠が設けられている	・これまで同様に決まった手順を踏襲しながらも、保護者との日常的なやりとりの中でキャッチしたニーズの計画や支援への反映にも注力したい
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7			・これまでは希望する保護者または支援上必要と判断したケースにおいてVineland-Ⅱを用いてきたが、今年度より取り扱いの容易なS-M社会生活能力検査を導入している	・保護者面談の機会などにおいて、希望と了承を得た上で、今年度は広くS-M社会生活能力検査を実施することができ、エビデンスのある支援に一歩前進できた
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7			・月MTによって、1カ月の活動のアイデア・立案を共有している ・月1回のミーティングでみんなで月の遊びを考えることが出来ていると思う	・MTに際しては、各スタッフがそれぞれに意識高くアイデアを用いる雰囲気が醸成されてきている

適切な支援の提供	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			・1カ月分の活動スケジュールを作成しており、曜日や内容が重複せず、子どもたちに様々な活動の機会が提供できるよう留意している ・様々な経験ができるよう、また興味の幅が少しでも広がるような遊びを今後も考えていきたい	・新鮮で変化に富み、楽しみに通所してもらえるように企画しているが、「またやりたい」という発展性・連続性も大切にしたいと考えている。柔軟に最適なスケジュールになるように準備をしていきたい
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	1		・学校を終えた後の平日利用、余暇としての期待の大きい休日利用、子どもたちの生活・学校の状況を踏まえた上で、サービス提供時間の多少に合わせて活動を設定している	・打ち合わせの手順が充実し、それぞれの支援計画をもとに、課題の共有をサービス前に時間をくかけて行っている。活動時間のボリュームに合わせ、個別支援をどう組み込んでいくか、検討の余地がある
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	7			・基本的には「個別」の視点が支援の中心となっている。集団の中の個ではなく、個性や特徴、「らしさ」を集団（社会）にどう調和できるかという視点に立脚し計画作成している	・同左。作成した計画の有効性をしっかりとモニタリングで確認していくし組み・手順もスタッフと話し合っていきたい
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7			・マニュアルに沿って打合せを行っている。連絡事項の共有、送迎、アレルギー、スケジュール、個別支援（支援計画・支援記録）、ヒヤリハットなど、1時間程度で実施している ・職員間での情報共有が少ない所もあるので、共有ミスなく支援に生かしていけるよう気をつけていきたい	・マニュアルに沿った口頭中心の共有・打ち合わせから、各自に個別支援計画の抜粋をまとめたファイルを用意するなどし、省力化・時短にも取り組んだ
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7			・マニュアルに沿って打合せを行っている。連絡事項の共有、ヒヤリハット活動、全体の流れの振り返り、個別支援の実施状況、翌日の予定など、就業前に情報の共有の機会を設けている ・その日の子どもたちの姿を共有することで次の支援に生かすことができているので、今後も振り返りをし、情報共有を大切にしたい	・マニュアルに沿って実施しているが、時間的な負担が大きい。支援の質に直結することを認識した上で、スタッフの勤務状況とのバランスにも配慮した仕組みを再構築したい
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			・今年度、記録業務の改善を行ってきたことで量と質が安定化してきた。より支援の質の向上に資する記録を蓄積するために、記録の焦点化に取り組んでいきたい ・子ども一人一人の支援内容をしっかり理解し、支援に役立つ記録をとっていけるように気をつけていきたい	・年間計画に記録に関する研修を設ける予定。支援の質を損なわない業務省力化にも取り組む反面、記録内容の焦点化に力を注ぎたい
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7			・モニタリングを行っているが、組織的かつ計画的な実施体制がまだ構築できていない。より効率的で実効的な方法を検討していきたい	・モニタリングの方法については、年間を通し、様々な方法を試していきたい。感覚ではなく、どのスタッフでも理解が一致する流れを目指したい
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	5	2		・自立支援・QOLの充実、創作活動、地域交流、余暇活動と、支援計画においても、複数のカテゴリで支援目標・課題を設定し、活動に反映をしている ・ガイドラインの総則を読んだことがなかった	・今後はプログラムを明確にしていく流れが求められる。パートも含め、まずはガイドラインについて改めて研修機会を設定するとともに、活動スケジュールの決め方についても改善が求められると考えている
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	2	1	・相談支援事業所がサービス担当者会議を開催することが稀である。過去には児発管が参加したことはある	・相談支援事業所にも相談しながら、サービス担当者会議を開催につなげるケースがあった。必要に応じて、デイ側からも働きかける姿勢を今後も大切にしていきたい

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	7			・保護者に学校の行事予定の提出をお願いしている。学校からは月末配布となるため、月初の送迎編成には毎月注意をしている。保護者とLINEでつながっており、送迎時のエラーについても可及的速やかに連絡をとっている	・学校迎えが予定時間より遅れることが年間数件あり、子どもに不安な思いや迷惑をかけることがないよう、0を目指した取り組みを考えていきたい。学校からに引き渡し時には、できるだけ先生に引き継ぎ事項がないかを確認している
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	2	3	・医療的ケアが必要な子どもの受け入れ実績がない。社内に看護師がおり、相談支援事業所・保護者・事業所で受け入れ可能なラインの検討を行っている	・必要な機会があれば、事業所としてできる限りの対応に努めていく
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	1	1	・保護者の依頼があれば、未就学児の保育所訪問を行っている。実績としては少ない。就学前の様子は、主に母親から面接で聞き取りを行っている	・市内で就学前の機関・施設との連携体制の構築はなかなか進まない。事業所単位で園とつながる、児発達支援とつながる努力を継続していきたい
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	2	4	・該当児なし。現在高校生の利用者が卒業の際にはしっかりと取り組みたい ・対象児童がまだいないため	・該当するケースがある場合は、移行事業所と会議の場を設け、必要な情報を確実に引き継いでいけるようにする
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		2	5	・今年度はコロナ禍により、研修の機会自体も少なく、スタッフの派遣も見送っている ・コロナで機会がなかったと思われる	・今年度は外部研修に出席したり、スーパーバイズを受けることができなかったが、オンラインにて、運営について、支援技術について、ケースワークについての研修を受けた。受講スタッフの偏りは今後改善していきたい
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	2	4	・交流を目的に機会の設定をすることはないが、地域の公園では自然と一緒に遊ぶ姿があったり、図書館やスーパーなどの地域資源の活用の中で緩やかなつながりを感じている ・今年は、コロナの影響であまりできなかったので、今後活動する機会を設けていけたらいいと思う ・児童館へは行っていないため	・スタッフによる設定された子ども同士の交流機会を示しているのか、場所・環境の共有なのか、インクルーシブ的な理念に基づく運営全般を示すのか、施設として本項目をどう実現できるか、保護者アンケートの意見を参考に、スタッフで協議したい
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	1	4	2	・協議会への出席は市内事業所の輪番制であり、今年度は担当施設ではない	・協議会出席への要請を受けた際には、積極的に参加する
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			・コロナ感染拡大防止の観点より、上半期は保護者面談を中止していたが、下半期より面談を再開し、保護者との共通理解を進めている。送迎時のやりとりの機会も大切に考えている	・コロナの感染状況を注視しながら、今後も面談の機会を設定していきたい。自宅への送迎時の保護者とのコミュニケーションについても、再度スタッフ全員で点検を行いたい
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	4	3		・プログラムとしてのペアレントトレーニングは実施していないが、家庭での子育てに対する助言や相談は随時行っている。保護者の希望があれば、CSP（コモンセンスペアレンティング）の提供が可能	・保護者の対応力の向上に資する取り組みとして、ペアトレの知見を活かした助言はもとより、保護者勉強会の開催や支援情報の発信などを考えていきたい
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	1		・サービス利用開始前の契約時に、規定、重要事項説明書、利用料及び加算額の一覧について、説明を行っている。国による利用料及び加算額の改定の際には、再周知を行っている	・引き続き、契約時には、保護者の不安や不明な点がクリアになるよう、丁寧な説明を心がけていく。また、サービスに関する変更が生じた際には、速やかに書面・メールをもって周知していく
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	1		・定期面談とは別に保護者の希望による面談、電話相談、LINEでの相談は随時受け付けている	・引き続き身近な存在として相談しやすい事業所を目指すため、スタッフの対応を研鑽したり、相談援助スキルの向上に励みたい

保護者への説明責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		1	6	・父母の会、保護会の開催、開催のサポートは行っていない。ニーズがあれば前向きに検討していきたい。コロナ禍で例年行っている保護者向けイベント（勉強会）は延期している	・機会があれば、父母の会のニーズ調査を行いたい。保護者向けイベントは、感染状況を見ながらではあるが、開催できる方法を検討していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	1	1	・苦情に対しては、苦情解決制度に基づき、窓口と責任者を設置している。苦情として処理を行った件数は今年度0である。一方で、保護者からの要望や指摘などに対しては、スタッフチームで共有し、迅速に可能な限り応えられるようにしている	・苦情か、そうでないか、と判断するのではなく、保護者の日常的な情報交換や意見・指摘を、どう組織として受け止め、対応していくか、という基準つくりに着手したい
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	3		・会報や機関誌の発行は行っていない。事業所での子どもの姿を保護者がイメージしやすいよう、毎月活動中の様子を撮影した画像をLINEアルバムにして保護者に送信している。長期休みは活動予定を利用予約前に保護者に配布している	・保護者はどのような内容の情報発信をデイに期待しているか、調査を進めていきたい
	35	個人情報に十分注意している	7			・子どもの名前の記載された書類の取り扱い、事業所携帯電話の管理、事務所における個人ファイルの保管など、管理者が責任者となり個人情報の取り扱いに留意している	・スタッフには就業時に個人情報の取り扱いについて誓約書を設けている。内部研修の中で、毎年内容を再周知する機会を設けていく
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			・子どもに対しては、特性に応じて、周囲の環境調整であったり、筆談やイラストといった情報の視覚化などを行っている。保護者に対しては、必要に応じて伝達手段（口頭・LINE・電話）の配慮を行っている	・どう伝えたかの工夫を今後も継続しながら、どう伝わったかの効果測定の視点にも留意していきたい
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	1	3	・今年度は夏祭りも利用者に限り、事業所ごとの小規模開催で実施した。コロナ情勢を注視しながら、安心・安全を第一にアフターコロナの地域交流について、スタッフ間で検討をしていきたい	・まずは利用者→そして保護者・家族→地域の方々と、徐々に施設機能の開放と地域交流を行っていきたい
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	1		・今年度はじめに「緊急時」「防犯」「感染症対応」の3種をLINEで保護者に周知している。マニュアルは事務所に掲示している	・定期的な見直しの機会を設け、保護者に再周知を行っていく
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			・法定通りに実施している。事業所での避難訓練に加え、防災センター等を活用し防災学習を行っている	・来年度の計画として、防災をテーマにした活動の充実化を予定している
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	2		・虐待防止に関する研修は、毎年全体MTで行っているが、今年度はコロナの影響もありまだ実施はしていない。年内に計画をしている	・2022.2に代表者が外部研修を行い、3月に伝達研修を企画している
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	2	1	・基本的には身体拘束の必要性が生じる状況、またその可能性については、保護者と入念に確認を行った上で、身体拘束以外の対応を協議し、受け入れを行っている。日常的に、3要件を合理的に満たし対応が必要となるような子どもの利用が現在はないため、計画への記載もない	・現在、本項に該当する子どもの受け入れがないが、虐待防止委員会の中で想定した基準作りに取り組んでいきたい

	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6		1	・アレルギーのある子どもについては、利用当日HUGシステムのメイン画面に表示されるとともに、サービス前のMTで該当児とアレルゲン食品の共有を行っている。指示書は緊急対応に備え、事務所の壁に持ち出し可能な形で設置している	・従前の方法通り、システム・手順書を整備し、口頭で確認を行うことを徹底していく。半期の面談毎に、医師の指示書に変更点がないか、保護者に確認を求めていく
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7			・サービス前には直近で発生している事例の確認、サービス後にはその日の事例の共有を行っている。事例の収集に留まらず、チャートやグラフを用い、多角的な分析にも努めている	・実効性の高い活動にするため、取り組みを日々工夫し、変化させ検証しながら、最適な方法を探り続けていきたい